

電気の安全 使用を訴え

県電気工事
工業組合

県電気工事工業組合の小谷野一彦理事長ら7人が1日、前橋市古市町の上毛新聞社を訪れ、8月の電気使用安全月間(経済産業省主催)に合わせて結成するキャラバンについて、同社の北村幸雄社長と懇談した。

キャラバンは同組合と関東電気保安協会、東京電気管理技術者協会の会員で構成、役所などを巡り、電気の安全な使用と省エネを啓発している。ことしは

8月3日に行つ。

過去10年は電力機器による感電を防ぐ、「漏電遮断器」設置を強く求め、普及率は9割を超えた。小谷野理事長は「今回は地震の揺れを感じる『感震ブレーカー』と雷から守る『避雷器』の設置を訴える」と意気込んだ。



電気事故防止や省エネを呼び掛けるキャラバンを予定する県電気工事工業組合